

## 『希望と気合いと』

副理事長・東京支部長  
酒匂 雅信

組合員の皆様

明けましておめでとうございます。

波乱の平成23年、想定外の事件が世界中で起った年がなにもなかったように明けて、希望にみちた平成24年が幕を開けました。今年も全国厚板シェアリング組合をよろしく願いいたします。

“何が希望に満ちただ”と正月早々怒らないで下さい。

今年の国家予算は96兆円であること。昨年暮までに決定した大きなプロジェクトは八ツ場ダムの継続、東京外環自動車道の再開、整備新幹線北陸、北海道、長崎やリニア新幹線やその駅舎の建設、東京都内の再開発及び多数の超高層マンション、それに長期にわたる東北震災の復興に国は最大限の予算処置をしたのだから景気は良くなると素直に考えるべきだと思います。まだまだ昨年からの負の流れは世界的にも、国内的にも引き続き、今年も影響を大きく受けることは間違いないと思いますが、今年も想定外の良い面をとらえて、前向きにこれらのプロジェクトに参加出来るよう努力しようではありませんか。

業界再編なんぞ〇〇くらえ！我らシェアリングはそんなに弱くはないぞ！

地産地消がなんだ！今年の総会は絶対四国でやるぞ！

秋山兄弟、坂本龍馬様に3年前のお願いを今年こそ実行するぞ！

冷鉄源様お願いします。

(京浜産業(株)・社長)

## 『難解な年』

理事・東京支部 最高顧問

大川 宏之

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお付き合い賜りますようお願い申し上げます。

と云っても東日本大震災・夏の台風・外国での水害と自然災害は避けて通れないとは思いますが、日本国ではその後の人災がひどかった。そして私達の業界は円高、原材料高、外需不振、国内は民主党政権の無能、公共投資罪悪論等、とてもおめでたい新年、お屠蘇でいい気持ちなどは云えない有様です。

さあ今年はと考えました。何はともあれ「ゲン」をかつげば昇り龍です。タツ年には株価が上がって来たと言う歴史だけが慰めでしょうか。しかし、現実には厳しいのではないかと思わざるを得ません。先ず世界の首相の顔ぶれが変わるでしょう。アメリカ・フランス・中国・ロシア・韓国・台湾、そして日本が今のままであるとはとても思われぬ。そして中近東での人権政事は善譲禪譲と言う言葉は全くなく、前政権の否定から新しい国造りが始まるとすれば全くどう展開するのか判りません。

経済問題も日本の円高は対ドルだけでなく対ユーロでの問題も大変です。企業収益は伸びず、海外シフトが進むと空洞化は更に進みます。震災復興を旗じるしとして国民に増税の妥当性を強いて来ます。大義名分で押されると日本人は本当に弱い。沖縄問題からアメリカの日本への信頼は地に落ちました。そして太平洋の防禦拠点は明らかに南方に移りつつある。と云う事は北方4島はロシア、竹島は韓国、尖閣諸島は中国で、もう手も足も出ません。口惜しいなんてものではない。日本も西欧先進国に追いつけ追いこせで、学問も技術も参考にして進化させ、物づくり日本、技術立国、科学先進で模倣から改善へと努力して来たのですが、中国は恥も外聞もなく、コピーで製品を出して来ます。だから中身はともかく早い。私の郷里の伊豆の名産は「しいたけ」ですが、中国産はそれよりずっと見栄えがする。ただ味は全くしません。しかし日本人の食感の壊れ方では価格が安くて形がよければ・・・で、伊豆のしいたけ農家はやっていられない状況です。本当に困ります。

今年、数え年では80歳になりました。今、若い人にはこの年の数え方を知らない人が多いでしょうが、私はお正月が来ると一つ年をとると言うこの年齢表示が好きです。そこで80歳をどう生きるかです。もう残り少ないことは当然です。取りに行く情報もやろうと言う情熱も身体能力の劣化は否めないのです。だから78歳でなく80歳を意識してこの今の人生を自ら悔いることなく満足感を持ちながら一日一日を精一杯生きたいと考えています。大好きな宝塚を観て、へボ碁を楽しみ、声だけは大きく邦楽の「清元」のお稽古と毎週のキリスト教会で子供達と歌い、下手でもゴルフのスコアを1点でも減らして、と、そうです家内と海外旅行を中心に旅を満喫出来れば、いい人生ですよ。

難解な社会はとても80歳には解けません。時の流れるまま、ただ逆らったり、怒ったり、怒鳴ったり、等々余りすることなく柔軟に、そして、しなやかに。素敵だ、いいなあと云ってもら

える生き方の中で次世代の健闘に応援出来るところは十分に、そして会社は、その弥栄の中で社員の皆とより幸せを感じていられれば嬉しいことだと考えます。難解な年です。でも時は次へ進んでいきます。

良い年であればそれに越したことはない。期待して精一杯に生きましょう。

(芝浦シャリング㈱・会長)

## 『グローバル サプライチェーンの台頭』

理事・総務委員長  
吉里 勉

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

あっという間に平成23年は終わり、新たな年、平成24年を迎えました。

リーマンショック以来、東日本大震災、原子力発電所の事故、国内、タイでの大水害、超円高、金融不安とこの3年間景気回復の余地を与えない状況が続いています。まさしく混乱、混沌の真っ只中です。

例年、干支に因んだ話題から始まり、緊張感の中にも希望を持った挨拶が定番ですが、今年は何か勝手が違います。今年がどのように変化していくのか、皆目見当がつかないからです。構造変化の中にいるのではないかと思います。

昨年は災害、金融不安、超円高と続くなかであらためて、サプライチェーン、グローバル化の実態を生活観として感じました。

厚板溶断の世界は、これまで「国内限」という定冠詞がつく「流通加工」分野でしたが、今年はグローバルサプライチェーンの台頭も懸念されます。

このような混沌とした時に何をやるかという、私は総花的ではなく、的を絞って徹底的にやるのが大切だと思っています。

製造業ですから、新規分野の開拓、生産性向上、品質・デリバリーの保証等、基本的なことを徹底的にやることです。実力を一段上げておかないと、すでに始まっている変化を凌げないと思います。今年の成果として自慢できるもの、一つや二つは持ちたいものです。

(JFE 鋼材㈱・社長)

## 『今年はどうな年？』

理事・新潟支部長  
真柄 修

明けましておめでとうございます。

昨年は、日本にとって大変困難な年でした。3月11日の東日本大震災の発生、それによる大津波の襲来。東北地方の太平洋沿岸部を中心に未曾有の大災害となりました。また、この大津波により、福島原発事故が起き、今尚、不安な状態にあります。今年の正月は、多くの被災者の方々が、自宅を離れ、故郷を離れ、迎えられたことと思います。無念で不安な生活を送られていることを思うと、胸がせつなくなります。一刻も早い復旧・復興を願わずにはられません。

また、昨年の夏場には、各地で集中豪雨が発生し、甚大な被害を及ぼしました。紀伊半島周辺では、土砂崩れ、川の氾濫等々により、今尚、復旧の目途が立たず寸断されている地域があります。新潟県も7月29日に集中豪雨に見舞われ、土砂崩れ河川の決壊が相次ぎました。当社のある三条市も、7年前の大豪雨の時ほどの酷さではなかったが、少数ではありましたが、社員が床下・床上浸水の被害に遭いました。

近年、天候異変は世界中で発生しております。日本を襲った集中豪雨は、秋にはタイを直撃しました。タイ国民の被害はもとより、進出している多数の日系企業も被害に遭いました自動車関連を主として、東日本大震災から回復しつつあったサプライチェーンが、また再び寸断されました。1年間で2度の寸断は過去なかった事ではないでしょうか。昨年の12月末時点では、乾期に入り、排水は完了したものの、完全復旧の目途は立っていない状況との事です。

昨年の夏場からの超円高は、日本経済に、競争力の減退、収益力の低下という大変なダメージを与え続けています。輸出型企業ばかりでなく、内需型企業にも影響が及んでいます。海外移転が進めば進むほど、国内の設備投資が減退していきます。このままでは国内の工場・倉庫等々の建設案件はどうなるのでしょうか。ここ数年は、東北復興需要はあるのでしょうか。その先行きは、全く不透明です。

新年を迎えているのに、旧年の事ばかりになっておりますが、昨年の2011年は我々にとって酷いことばかり続いたので、忘れたい年ではありますが、忘れてはいけない年だったと思います。日本人にとって、本当に「記憶に残る年」「記録的な年」でした。

果たして今年はどうな年になるのでしょうか。

超円高状況の継続、新興国の成長の翳り、欧州の金融不安等々、負の要素は多々あると思いますが、東日本の復興、日本経済の復活に向けて、自覚・自立の覚悟で乗り切って行きたいものです。

(新潟スチール(株)・社長)

## 『2016年名古屋新都市構想に想いを寄せて』

副理事長・東海支部長  
林 光雄

皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年、当地はリーマンショックの傷が癒えつつあるところで、東日本大震災が発生し、自動車を中心にサプライチェーンの寸断による大幅な生産減少に見舞われました。その後の円高の高進、そしてまた、落ち着きを見せ始めたところでの「タイ国大洪水」による生産減少と、出鼻の挫かれっぱなしで、「もう鼻血も出ない」という状況でありました。

そのような中で、昨年10月14日金曜日に「ZSK 全国青年会名古屋大会」が開催されました。私はつい弱気の虫が出て、「明日から開催される名古屋“三英傑（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）まつり”の標語は、＝とどけ、もののふの心、とどけ名古屋の元気＝ではありますが、名古屋は実は元気がありません」と挨拶してしまいました。

さて、今年はどうでしょうか？少なくとも、当地における建設需要は、10月14日前後の時点が底であったような気が致します。また、トヨタ自動車さんの生産も「タイ国大洪水」の影響を受けて、減産傾向が鮮明になってきたのも、10月からでありました。

その後、明らかになりつつあるのは、トヨタ自動車さんの生産は、今年の1月より本格回復する点。また、年末に明らかになったように、今年の世界生産は840万台であり、リーマンショック前の水準に戻るといえる点であります。国内生産に関しても、「300万台水準を死守したい」との姿勢であり、昨年の生産レベルからは増産となります。

当地の設備投資動向については、残念ながら、「空洞化」の進行が顕著になりつつあります。製造業で言えば、設備投資の国内海外比率は「1：5」で海外投資計画が目白押しの状況であります。

従いまして、我々の期待は「建設需要」という事になりますが、ここで、名古屋駅前を中心とした、所謂「2016年新都市構想」についてお話しをしたいと思います。

本件は、当地の産業界、各経済団体内で検討されているもので、公式な発表はどこにも出ていません。危機感の背景は「リニア新幹線完成の暁に、名古屋が東京の衛星都市になってしまうのでは」というものであります。従って広い範囲で言えば、長期計画の構想であります。

名古屋が特色のある街として、独自に存在するための方策を検討するという次第であります。その手始めに名古屋駅周辺の高層ビル化を再開し、「名古屋駅の周辺を新都市化し、その後、周辺地域の整備を進める」という構想であります。

最大のシンボルは「リニア新幹線名古屋駅」であり、既に、駅前のビル高層化に向けた解体工事スタートしており、併せて大深度のリニア駅建設の地下工事が着工しました。

このリニア新幹線駅前の高層ビルは高さ260メートルと現在の駅前ミッドランドスクエア（トヨタビル）の247メートルを超える計画であります。また名古屋北側の中央郵便局跡の高層ビルも210メートル、大名古屋ビルの建て替えも190メートルと、漸く、名古屋駅周辺の高層ビル化が進捗します。

また、名古屋南側のエリアも名古屋駅から直結する地下道をつくり、高層ビルが建築される予定であります。その全ての完成が2016年を目指して、今後着工する見込みであります。

問題は、地下工事等々、「公」がやらないといけない部分であり、この着工が遅れ遅れになっていきます。しかし、リニア新幹線他、民間の計画が殆どでありますので、きっちりと名古屋駅前の「新都市」は2016年に完成するでしょう。

現在は、まだまだシンドイ時期であります。我々東海支部のメンバーは「歯を食いしばって」耐えております。忍耐の先にある明るい未来を信じております。今年辰年であり、「当地の経済が立つ」年に成る事を祈念しまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

(三和鐵鋼(株)・社長)

## 『明日の財産創りのために』

副理事長・大阪支部長

木村 秀明

新年明けましておめでとうございます。

年頭・新春という言葉に、早一年が経過したのかという想いと、10数年前の北海道での  
当時が懐かしく思い出される。

年初は、早朝からの神社での安全祈願式から始まり、続いて出退勤務者への安全呼びかけ  
所謂“門立ち”へと続く。

もちろん気温は氷点下、年によっては強風と降雪のダブルパンチもあり、3班での交替制  
とはいえ、数分も立ち続けると身体の芯まで冷えきってしまう程の1時間である。

その後、始業式・新年交流会・安全パトロールと、絶え間なくスケジュールをこなし、  
夕方からは、製鉄所関係者が一堂に会しての新年交歓会が開催される。

この様に、年始の行事はこの一日で終了し、翌日からは普段通りの生産活動に移行する。

当時は、なんと厳しい自然だと震えあがると共に、年頭行事を一日で済ませてしまう  
合理的発想に、厳しい環境におかれた人々の強さと知恵を垣間見たと記憶している。

今思えば、歴史を受け継ぎながら、試行錯誤の経験を重ねる中で、自分流の創りあげた  
貴重な財産だったのだろう。

昨年10月に名古屋で開催された“青年交流会”、若い世代の主催者、各支部参加者の  
情勢報告や懇親会での会話の中に、一人ひとりがそれぞれの財産（ハード、ソフト、社外  
とのネットワーク）を活用しての新しい事業スキームを目指す決意表明に、業界の先行き  
へ心強さと明るさを、自分自身にも勇気を頂いた。

ここ2～3年間は、世界的な環境変化が予測を超えるスピードで展開し、我々の業界も  
もろに影響を受け、日々の対応に右往左往させられた。

今を嘆いたり、明日を持つのでは、一步も前進しないと直感した経営者は、自らの財産を  
如何に使って、新しいニーズを掘り起こすかに積極的に取り組み始めた結果、勇氣ある  
行動が奏功した事例も少なくない。

残念ながら、改善へ向けた取り組みが即成果に結び付く事は難しく、改善取組と効果の  
蓄積が一つの成果に繋がるという図式が現実なのではないか？

先日の青年交流会のプログラムの一つ、“トヨタ産業技術記念館”での繊維機械の開発の  
歴史に、改善の取り組みに向けたヒントを実感した。  
紡ぐと織るといいう機能を、“生産性向上”という一貫したコンセプトで追い求め、しかも  
現在に至るまで改善を継続している事に驚かされた。

今年、業界を取り巻く環境は不透明であるが、厳しい環境である事は間違いない。  
また昨年の“東日本大震災”といった予測不能な環境変化も考慮しなければならない。



今われわれに求められるのは、1) 改善に向けた継続した取り組み 2) しっかりとしたコンセプトでの成果の蓄積 で、3) すぐに着手すること。

年頭が、スタートいやダッシュの良いチャンス、“明日の財産、次世代への遺産”を創り上げる為に。

(株日鉄神鋼シャーリング・社長)

## 『 絆 』

理事・神姫支部長  
齊藤 淳泰

新年明けましておめでとうございます。  
平成24年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

まず冒頭に昨年の未曾有の大災害『東北地方太平洋沖地震』におきまして被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。

我々同業者の方々も被害に遭われたと聞き及び、胸を痛めています、何卒一日も早い復興復活を願っています。

さて昨年は大震災と福島原子力発電所事故の影響から被災地の生産活動が止まっただけでなく生産設備の損壊によるサプライチェーンの寸断、その影響で経済が停滞し企業や消費者マインドが冷え込み景気に暗い影を落としました。

その上、急激な円高や高い法人税率、それに電力不足、過剰な労働規制、自由貿易協定（FTA）への取り組みの遅れ、さらに環太平洋経済連携協定（TPP）へ野田首相は参加を表明しても国論は二分、先行きは全く不透明、輪を掛けてタイの洪水の影響など『六重苦』『七重苦』などと呼ばれ、他国と不利な競争条件により、日本国内企業が生産拠点を海外へシフトしようとする産業の空洞化の兆しが顕著になりつつあります。

そういう厳しい経済状況の中、日本国内に軸足を置かざる得ない大半の厚板シェアリング業界は生き残りを賭けた正念場の年になると思います。

そのためにも鋼材価格が乱高下しようとも、切板の適正加工賃を確実に確保できる価格体系を業界が一つになって構築し、尚且つ堅持し続ける努力が肝要だと思います。

切板の適正加工賃を得るということは、非常に世俗的な言い回しながら、『労働の対価』として当たり前のことなのです。

日本国内において、切板生産が開始されてから100年の伝統ある歴史が有り、どんな歴史的背景にあっても日本発展の我が国鉄鋼業界の一翼を担ってきた自負心と誇りをもち、当組合の設立の精神である『信頼と共生』を肝に銘じなければいけないと確信しています。

話は変わり、日本国内では先行き暗い話題ばかりですが、昨年より数少ない明るい話題の中にあって、大相撲で4年ぶりに日本人大関が二人誕生したことです。その一人、琴奨菊は大関に推挙された時に遣った言葉は、私達が生活を営んでいる姫路にも縁のある、武芸の達人であった宮本武蔵の五輪書から引用した。色んな道筋があっても目指す先は一つ、自分を見失うことなく努力と精進を積み重ねる、『万理一空』に私は感銘を受けました。さらに一の字には、彼の祖父一男さんの一字である一を入れることによって感謝の気持ちを込めているという事です。

全国厚板シェアリング工業会の諸兄各位におかれましては、『万理一空』に準え、『切板適正加工賃の確保』を目指し、一衣帯水の『絆』を強く結び、外向き上向き前向きの心意気を以って、平成24年、壬辰の年に臨みましょう。拝

(齊藤鋼材(株)・社長)

## 『懐かしい—あのやり方—への回帰』

理事・中国支部長  
浅利 重法

年末にタクシーに乗ったら、運転手さんに‘2012年問題’って何だと思いませんか、と聞かれた。

新聞のコラムなどを思い出しながら、団塊世代の65歳到達？造船業界の船腹過剰？とこたえようと、米中露などの指導者の交代だと。短い距離だったので詳しく解説はきけなかったが、おおむね以下のようなことだろうか。各国とも景気低迷から指導者は内向き、保護主義傾向となり対外強行策発動の懸念あり・・・付け焼刃で続けると一国際協調の乱れで欧州財政危機がさらに悪化すると金融危機から実体経済—ユーロ圏貿易悪化へ、日本経済はユーロ安で輸出産業に打撃。世界経済—貿易の停滞→船腹過剰の増幅とともに日本経済に深刻な影響、税収不足下の高齢化の進展—団塊世代の医療費支出増大でさらに財政圧迫へ。視野のひろい運転手さんの話と中小企業経営者の近視眼の関心は当たり前のようにグローバルに繋がっているのだ。それにしてもまたもや金融危機から実体経済に悪影響とは怒りを通り越して呆れてしまう。金融セクターの連中が権力中枢に君臨しているからどうしょうもないのか。

なんだか2012年はろくでもない年のように思えるが昨年2011年は自然災害、原発事故、ソーシャルネットワーク革命、金融危機とあまりに多くのことがおき、どうやらそこがターニングポイントでいままでのビジネス&ライフモデルが限界にきていて変わらざるを得ないといわれている。希望的に楽観的にその変化に期待したい。大量消費—大量廃棄経済、大都市集中型、画一思考、こうしたものが反転し地方分散型—スモールビジネスに向かうというもの。激甚災害リスク回避のためにも首都圏をふくむ東海道ベルト地帯に集中するGDPの日本海側などへの分散をはかるべきだし、地方分権、活性化によりシャッター通り商店街が復活しあの懐かしき人の往来がもどれば人の絆も再生され災害・犯罪に強い共同体が再生されよう。家人の郷里、福岡県大牟田市はかつて石炭で栄えたが中心部に2つあった百貨店は閉店し跡地はながらく暗渠となり雨水がたまってた。かたや郊外に大規模ショッピングモールが二つ（余談だが滅多に対向車に出くわさない高規格道路もある）。全国チェーン店で造りはみな規格化。全国どこの店も同じで買い物をしていると本当にどこの町にいるのかわからなくなる。便利ではあるが面白くないコンビニと一緒に。郷里の商店街の復活にはおおいに期待したい。大規模発電所から発想を変えた地方の森林資源や小河川をいかした小規模電力もペイするケースがありそうだ。なによりも人の手を介するのが重要で商品もサービスも気持ちが伝われば大事にする。日本人は人（職人さん）の手により繊細な配慮をほどこした物づくりに秀でており、これは四季を愛するわが民族の誇りだと思う。使い捨てる経済から大事に残す経済に移行するとき日本の物づくりの評価は飛躍的に高まるであろう。物づくりの質の高さは長い歴史に育まれるものであり製造業の永年継続は誇るべきものだ。日本には200年以上の歴史をもつ企業がたくさんあるというが、鉄から食品業界に転じた友人によると酒造業では古参と新興の分かれ目は応仁の乱の前か後かというそうだ。そういえば小児薬「桶屋奇応丸」の坂上家の始祖は坂上田村麻呂だとか。こうした時間軸でみれば短期業績で株主を気にするなど笑止である。最近、企業の評価軸は徐々に「公益資本主義」「持続的経営」に変

わりつつあると。実は新しい話でなく米ジョンソン&ジョンソンの経営理念（1943年）によるステークホルダーへの責任の優先順序は顧客、社員、社会、最後に株主だという。こういう評価が普遍化していけば目先にとらわれない経営が可能となり、結果的に雇用も安定し格差拡大の解決にもなるだろう。なんのことはない昔のよき日本的経営そのものだ。我々が望むべきは格差のない安定した共生社会の実現であり、その次世代への継承である。

溶断業は厚板を仕入れて加工して売る。切板は船となり、橋となり、ビルとなり世の幸をすすめる。人の弱みや欲望につけこんだ金融商品などとは断じてちがう。鉄の矜持をもって持続的経営を目指したいが、さて当面2012年辰年をどうするか?「昇竜の如く」とはいきそうにない。造船線表のきれ目が事業の切れ目とならぬようにあらゆる策を講じていく。社会のモデルの変化がもたらすチャンスは必ずある筈だ。因みに自分は巳年生まれ。蛇には「蛇蝎の如く・・・」などマイナスイメージがあるので干支の話題はなんとなくさけてきた。しかし巳年生まれの名誉のためにいえば、蛇は神の化身であり英知・聡明の象徴で商業の神ヘルメスの杖に巻きつく蛇は一橋大学や全国の商業高校の紋章でおなじみ。ただ今年の業績は「龍頭蛇尾」にはしたくないな。

(太陽シャリング㈱・社長)

## 『九州に生きる』

副理事長・九州支部長  
木村 昭夫

新年明ましておめでとうございます。

東日本大震災で被災されました組合員企業の皆様方の一日も早い復旧・復興を、心よりお祈り申し上げます。

さて、2012年は、やっと私達「一般シヤー」の業界にも明るい光が差し込んで来る年になると言われています。

当、九州支部もそうであってほしいと願いつつ、現実をしっかりと直視する意味で「九州の長い厳しい冬」を年頭に当たり整理してみました。

地域経済を担う九州地区は、地方であるが故に建築・土木による発展に私達の業界はどうしても左右されます。

公共案件がストップしてしまった状況下（公共箱物は悪とのこと）、民間建築も病院を除き大半がストップしています。

勿論、大手デベロッパーによる再開発案件は鳴りを潜め、不採算投資は実施されようがありません。

九州地区は、自民党政権時代に、工場誘致や地域活性化政策の下、地味ではあったものの、穏やかな成長を続け、結果として私達シヤリング業界は、九州支部組合員企業22社プラス非組合員溶断業者約20社の合計約40社がひしめき合っています。この狭い地域内でも、リーマンショック前までは需給バランスがとれていました。しかし、リーマンショック後、全ての分野で需要が一気に消えてしまい又、需要家も自社の雇用対策上からの判断で、自社に溶断設備を導入するなど外販需要規模が約50%に落ちてしまい、今もその状況が続いています。

当然同業者間で熾烈な競争が起こり、それこそ赤字受注の常態化及びそれによるバランスシートの極端な悪化に各社共、陥ってしまいました。苦しさの余り活路を九州域外に広範囲に求めた会社も多々ありましたが、結局は長続きせず、その目的を果たせませんでした。

一方この頃、大手建設機械メーカーの好調さに連動して、建機型シヤーの好調振りが伝わってくるのと反比例し、当九州支部では惨憺たる状況が続きました。

閉塞感が充満し、行き場の無いいらだちから、支部組合員からは、組合活動の意義そのものを否定する様な発言も見られました。いつまで待っていても需要が回復しない当九州支部では、ついに生き残りをかけたリストラの着手に追い詰められました。

派遣社員・外注工を減らすだけでは50%減となった当地区、需給バランスを調整する事が出来ず、多くの会社で各社各様のやり方で正社員のリストラに着手せざるを得なくなりました。正社員をリストラする決断と実行は、労使双方にとって大変大きな痛みを伴いました。

この2~3年間で、九州支部組合員企業だけでも正社員約150名、派遣社員・外注工を含めると約300名以上が厚板溶断業界から去らざるを得なくなりました。

まさしく「九州溶断業 暗黒時代」となりました

先行きの需要をどの様に捉えるかは、個社の問題ですが正社員に手を着ける様なことが再びあってはならないと考えます。

当九州支部では今のところ、メインとなる大型案件はなく、又、厚中板を恒常的に多く使用する製造業も（一部空中戦企業を除いて）さほどありません。

当地区溶断業界の景色はリーマンショック後、全く変わってしまいました。過去の景色を懐かしむ気持ちは当然ありますが、今の新しい景色で各社がどの様に生きていくのか、又、変化にどの様に対応していくのかが経営者に問われている責務となっています。

量を追い求める時代は過ぎ去り、中味を求める時代に変化をとげたはずです。今年、この変化の急流の中にある『登竜門』をくぐり抜け『昇り龍』となるエキサイティングな一年にしたいものです。

“ 神よ正しき道を教え給え  
 剣よ悲しみを斬り払え “  
（「ベルサイユのばら／我が名はオスカル」より）

新年が全ての全国厚板シェアリング工業組合員にとって良き年になります様に。

（豊鋼材工業㈱・社長）